

各地の残すべき地形・地質

三陸ジオパーク

悠久の大地と海と共に生きる

三陸ジオパーク推進協議会 関 博充

三陸ジオパークは、北上山地の東部、青森・岩手・宮城3県に跨がる16市町村からなり、南北約220km、東西約80kmを測る日本最大のジオパークです(図1)。



図1 三陸ジオパークの位置

三陸の大地は地球史を語る上で欠かすことのできない、およそ5億年前まで連続的に遡ることのできる大地の記憶が眠る場所です。そして、東北地方太平洋沖地震・津波をはじめとする、震災の記憶を後世に伝え学ぶ地域です。

1. 三陸の大地の魅力

三陸の大地は、形成された場所や環境が異なる2つの大地が、ひとつになったものです。南側は、およそ4億5千万年前頃に赤道付近にあった Gondwana 大陸の一部で、その後徐々に北進してきた大地で



図2 三陸地域の成り立ち

す。一方の北側はおよそ3億2千万年～1億4千万年前に海底に堆積してできた岩石がプレート運動によって大陸側にこそぎ取られた付加体からなります。そ

れらが1億4千万年前頃までには、ひとつになったと考えられています(図2)。

さらに、それらの大地を貫いた、およそ1億4千万年前頃のマグマ活動や、数百～数十万年前からの隆起や侵食など、さまざまな地球活動によって、現在の地質、地形、鉱産資源が形成されました(写真1・2)。



写真1 1億3千万年前の火山砕屑岩などが隆起、侵食されてできた海成段丘(田野畑村北山崎)



写真2 2億数千万年前にできた石灰岩に空いた鍾乳洞(岩泉町龍泉洞)

そのため三陸を南北に縦断すると、バラエティに富んだジオサイト(全部で48カ所、その中に、見どころとなるジオポイントが130カ所)を楽しむことができます。

2. 東北地方太平洋沖地震・津波の記憶

プレートの沈み込み帯に位置する三陸は、これまでも大きな地震・津波が繰り返されてきた地域です。

過去の津波被害、防災への教訓を伝え

る石碑や人々の生活習慣に防災文化が残されているほか、東北地方太平洋沖地震・津波による被害の大きさを直接的に伝える、震災遺構の保存も市町村を中心に進んでいます(写真3)。

各地では、震災の被害と復興の状況を伝える語り部ガイドが活動し、多くの来訪者を受け入れています(写真4)。復興が進展する中で、地震・津波のメカニズムや津波被害への対処方法など、リアルな防災教育を行う、学習フィールドでもあります。



写真3 震災遺構として保存が決定した、たろう観光ホテル(宮古市)



写真4 震災語り部(陸前高田市)

3. 豊富な海産資源

三陸の沖合は、北からの寒流と南からの暖流がぶつかるため、世界有数の漁場となっており、私たちは多くの恩恵を受けています。

沿岸部では、リアス海岸が作り出す穏やかな湾内での養殖業が、岩石海岸のごつごつした岩礁地帯では、サッパ船や素潜りによる漁が行われ、豊かな海産資源が三陸地域の人々の暮らしや文化を育んできました(写真5)。

三陸では、美味しい魚貝類が獲れる海と共に生きる漁師の船に乗って、ジオサイトを海から眺めることもできます(写真6)。



写真5 穏やかな湾内に養殖筏が浮かぶ山田湾(山田町)



写真6 サッパ船と呼ばれる小型船で海上から雄大な景色を楽しむツアー(田野畑村)

4. 地域を支えた鉱産資源

三陸地域から産出される鉱産資源は多種多様で、鉄や金、石灰岩、マンガン、モリブデンなど地域の産業を支えてきました。

世界有数の産出量を誇る久慈市周辺の琥珀は、後期白亜紀の久慈層群から産出します。近年は恐竜化石の発見も相次ぎ、琥珀採掘体験は活気に溢れています(写真7)。



写真7 久慈琥珀博物館では琥珀採掘を体験できる(久慈市) 左下は虫入り琥珀

5. 推進協議会の取り組み

三陸ジオパークは、大地と人々をつなぐストーリーの宝庫です。推進協議会では、多くの来訪者にこれらのジオを楽しんでもらえるよう、ジオガイドの養成やツーリズムの開発に取り組んでいます。

また、環境省による三陸復興国立公園やみちのく潮風トレイルなどの取り組み、今年4月に全線開通する三陸鉄道との連携も図り、三陸の魅力を発信していきます。